

然し、畫家といふ者はそれ程詰らぬ者でしようか。兄さんは近頃國へ離流して來てゐる六方とか云ふ南畫の先生を標準にして「畫かき」と唯一口にけなされるのです。六方といふ人は、京都の直入の弟子で長い間苦心慘憺して修業した結果こんな田舎を週つて僅の繪を賣つてやつと其日其日を暮すとか、こんな人を例に擧げて私の決心を飜へさうと思つて居られるのです。

私は畫家に限らず一般藝術家の、うわべは人の羨やむ程派出な職業で、其實内面は慘憺な生活である事もうす／＼知つてゐます、又随分貧乏な生活をする事も覺悟して居ます。

然し、私は派出な職業も富貴も望みません、三度の食事が出來ぬやうな事があつても、繪筆を抱いてカンヴァスの前に立てば空腹い事も忘れ、總ての邪念も虚榮も打忘れ、たゞ／＼自然の情景に接して、崇高な神祕な美に打たれて、自分を忘れたときがうれしいのです。餓死んでも厭ひません。趣味の爲に奮闘して、趣味の爲に死ぬるやうな事があれば私の理想です。

フランスの西陣ともいふやうな美しい織物の産地リオンに、一八一一年貧乏小舎の中で初めて呱呱の聲をあげたメソニエーは、十九の時始めて都パリに上つてから、名を成すまでに實は五十年以上といふ長年月掛つたのです。彼の美しい髪が眞白になる程、殆彼の一生涯中勤めて勤めた結果、漸く晩年に至つて桂の冠を戴いたといふ慘憺な歴史があります。私は其のみじめな生涯をしたメソニエーが羨ましくつてたまらんです。

元來日本の現代社會には俗人が多いのか、又現金主義の人が多

いのでせうか、金錢の奴隷になる人のみで崇高な趣味の奴隷は殆無いのです、現代の人々は繪畫に對して餘り冷淡です、特に洋畫の趣味のある人は五千萬の同胞の内僅に指折る程でせう私は遺憾に堪へません。兄さんは全々趣味が無い人ですから、無趣味な人と議論するのも駄目だと思つて諦めて居ます。

然し、私が考へますのに、此後十年も経過したならば、無趣味現金主義の日本人も少しは畫の有趣味が解つて、現今フランスや諸外國に於けるやうに、繪畫を歎待するだらうと思つてゐます、兄の所謂「畫かき」が威張れる時代がきつとくるに相違御座いません。

其の威張れる時代の活動舞臺に雄飛するには、どうしても此頃からの素養が大切だから、此の好時期を逃さないやうに、斯道に這入つて私の素志を貫徹したいのです。

斯様な具合で、私も經驗ある人々に相談する積りですから、姉様もどうかとくとお考へなされて、何とか御意見を御聞せ下さい、亂筆ながら御相談申し上げます草々。

眞面目な問題です、兎に角中學を出てからのこと、それ迄は學科を充分におやりなさい、美術學校に入るにしても中學の成績は大に關係があります。(編者)

鏡の樂屋觀

工 生

僕は研究所の樂屋の鏡だ。僕の置かれた机の上には仲よしの白粉ちやんや紅子嬢、さては意地のわるいお墨さん等も居る。向

ふの隅には女や小僧の衣類・洋服・シルク・ハット・下駄・草履その他種々の物が轉つて居る。此方では假髪や髻が風呂敷の中から顔を出して居る。入口は戸が閉ぢてあるので外は見えぬけれどもだいぶ人が来てゐるらしい。役者が四五人はいつて来て衣類を取り替え始めた。餘興が始つたと見えて二階の會場で拍手が起つた。「やあ君よく似合ふよまるで文房堂の主人をつくりだ」と一人が云ふ。さうかと云ひながら僕の前へ来て微笑を浮べて居るのはG君だ——僕は始終研究所に居るから毎日來る人なら大底名を知つて居る——G君は小さな身體に縞の衣服に角帶前掛といふいでたちで相變らず眼鏡を光らせて居るが今日はすつかり商人さんだ。G君の次に顔を出したのはジヨン君の酒屋さんだ。ジヨンだなんて犬見たいな名だけれ共研究所で有名な色男おつとどつこい、こらだまぢよれよかね。サダちゃんは今度畫家の役になると云ふので、顔の細工が出來ると長髪を頭へつけた。「ヨウ繪かき屋さんが出來るんだね」繪畫きはよいけれど何しろ借金で頸も廻らなくなつて夜逃げをするといふ筋だらう何だか僕の將來がさう成る様で不安でしやうがない」とサダちゃん此處思案のてい。不意に黒い汚らしい顔がぬつくと現はれた。よく見るとモツちゃんだ。モツちゃんはたゞさへ白ろい顔へ墨を塗らたてたからたまらない、何んの事はないまるでダドンへ眼鼻をつけた様だ。それで云ひ草が可愛らしい。「此頃は何處へ行つても上ツた」といはれて、もてゝし様がないからたまにはからいふ盜賊の様な役もやらなくちや身體が續づか

ない」と。黒ろい顔につゞいて白ろいしかも頭髮をハイカラに結つて赤い大きなリボンを付けた女の顔が現はれた。はて誰だらうと小首をひねると何の事だ僕の主人のアカちゃんだ。づいぶん美しくなつたもんだ、見違ひじやないかしらと硝子をふいて見るけれどやつぱりアカちゃんだ。して見ると女といふ奴は頭のものゝ衣服で一ツはきれいに見えるのかしら等と考へて居ると「おいアカおれはおまへに惚れたよ」いつの間にか誰れか樂屋の入口からのぞいて居る。これだから美人が出來ると物騒だ。テレちゃんか頬かむりをして尻つばしよりで此方をむいてテレ／＼と笑つて居る。かけ出しの盜人といつた感じだ。芝屋が始つたのか皆で往つた。これで僕も少しは息がつけると思つて居るとY君がはいつて來て一人でコツ／＼とも何とも云はずにお化粧を始めた。先づ其のニキビだらけの顔へ白粉をべつたり塗つて一文字に太い眉を墨でぐつとかいた。次に眼の縁や口の廻りへ隈取を入れて凄味のある好男子になつた。「十年苦役をする」と云は、そりや手前が少さな了見、盗んだ金を先へ返し改心して自首すりや……」Y君新舊合併の口調、臺詞の一節をどなつた。折から一芝居終つたと見えて役者連がドカ／＼と歸つて來た。「今の盜人は二人とも實によかつたね僕はおかしくておかしくて……」人が轉げて笑つてゐる。「うまい筈さ本職だもの」「やめろいこゝに聞かしてゐるぞ」うしろにモツちゃんが立つて居る。皆してドツツ笑ふ。「おいお菓子が來たよ」「何に菓子」お菓子と聞かちやたまらない、自粉を片頬だけつけたり、

隈取を半分かいたのが芝居がぢき始るといふので片方の手で菓子をパクツキながら一方の手でお化粧をついで居る。タキちゃんはお化粧が出来ると西洋婦人服をつけて、假髪をかぶつた。「イヨウハイカラな美人が出来たね、こりや受けるぞ」うけるのはいゝが〇〇さんが心配するから氣をつけ給へ」「アラ大丈夫よ心配しなくてよくつてよ」タキちゃん女の聲で辯解する。タキちゃんの跡へ来たのはツーちゃんだ。髪の毛をピンツケてかためて其の上へ何か塗つてはげをこしらえた。頭が出来るとツーちゃんも洋服をきた。ハイカラな蠅トマルトスベルが出来上ったわけだ。カイゼルをつけた立派な紳士がフロツクを着ながらして現はれた「やお岡先生かと思つた」どうだ上ツたらう」といひながら紳士は僕の處へ来て姿を寫して居る。上ツたりな上ツたりな彼の紳士はモツちゃんだ。さつきの盗人になつた人とはどうしても思へない。「モチ君すてきたぜ」ボンちゃんが笑ひながらやつて来た。「いゝだらう僕だつて今にきつとかうなつて見せるさ」モツちゃん大得意のてい。あかりがついた。拍子木がなる拍手喝采が起つた。すでに樂屋には誰れも居ない。「かう皆でゝ往つてしまふと淋しいな」と僕は獨り言をいひながら、あまり色々面白ろい顔が出るので興にのつて此度はどんな顔が現はれるだらうと考へて見る。一しきりどつと笑聲が起つた。「うまいぞ」「よいしょ高島屋」などといふ聲も折折戸の隙間からもれてくる。今の喜劇が終ると「サア辨當だ」とアカちやんタキちゃん等が化粧をつけたまゝで裾もあらはに、かけず

り廻つて居る。大變な女もあつたもんだ。二階も下もたゞがやがやいつて居るばかりで、便所の戸をあけたてする音が騒々しい。再び餘興が始つたと見えて、又拍手喝采が聞える。雨村君米屋のなりをして、生れてから始めて鏡を見るといつた顔つきで僕の前へ頸をつき出した。アハ……」と雨村一派の豪傑笑ひをして頭をかきながら出ていつた。すれちがひにテレちゃんが胞衣ドデラを着込んでやつて来た。九尺二間の裏店のおやぢといつた感じですこぶるよく似合ふ。「オイ與太郎仕度は出来たか」と傍にいるG君をかへりみる、G君はいつの間にか二本ばなをたらし立て居る。察するにテレちゃんの小供にでもなるらしい。こんなものぢやどうだ」と天狗が何所からか舞ひこんだ。顔はお面でわからぬが聲がマツちゃんだ。青いきれをかぶつてヒュ——ドロ——とさすがは天狗だけに神秘的な聲で、身振ひをして居る。

* * * * *

新年會は芽出度く終つて來會者の多くは歸つたらしい。玄關の方でカルタをとる聲がする。今日は種々の面白ろい顔が見られてお蔭で命の洗濯が出来た。隣りの白粉ちゃんも紅子嬢も、今日の日つかれで、いつの間にか、こくり／＼やり始めて居る。

雑魚網

熱海の住人

●静岡では僅五日間の講習であつたがなかなか得る處は多かつ